

日刊

産業新聞

Japan Metal Bulletin

など弁
業管工
鋼管引
旭中

来期、生産能力を增強

自動車需要増に対応

大手引抜鋼管メーカーの旭鋼管工業(本社 埼玉県草加市、若林毅社長)、新日本製鉄、三井物産、香港三井物産の4社による自動車用引抜鋼管の製造・販売事業会社、広州盛旭汽車配件(本社 中国・広州市、若林毅・董事長)は、来期(2011年12月期)、引抜鋼管の生産能力を增強する。日系を中心に中国に工場を設置している自動車メーカー各社の生産が好調で、引抜鋼管の需要は年々増加。

これに対応し、伸管ライン1基をはじめ、切断機、面取機などを追加導入し、引抜鋼管生産能力を月間400トから同600トに引き上げる方針。設備増強に伴い、工場建屋も増築する計画だ。

中国国内の自動車需要は好調を維持しており、09年における中国国内の自動車生産台数は1379万台と、前年比48%増加。10年の自動車販売台数は1500万台を超える予測される。これに連動する形で、自動車用鋼管市場も拡大しており、足元、月間4万ト規模にまで成長している。

広州盛旭汽車配件は05年9月の設立以来、引抜鋼管の生産量、切断加工量が年々増加しており、09年7月出荷量は300トを超えるなど、至近はフル生産が続いている。このため、今後増加する見通しの自動車用鋼管需要に対応することも、ユーザーへの安定供給を継続するため、

来期、伸管ライン1基をはじめ、切断機、面取機などの追加導入を決めた。工場建屋面積を増築し、約7000平方メートルから約8500平方メートルに拡張する。伸管ラインの設置は10年12月末に完了する予定。

広州盛旭汽車配件は資本金3500万円で、出資比率は旭鋼管工業50%、新日鉄20%、三井物産20%、香港三井物産10%。拠点は広州市花都区に置き、現行の生産設備は伸管ライン2基、切断機、焼鈍炉、酸洗設備を設置しており、生産能力は月間400ト。高精度・高品質の冷間引抜鋼管、二次加工製品を製造している。